

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791300078		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター貝塚【一階 はなみずき】		
所在地	大阪府 貝塚市 加神1丁目10番3号		
自己評価作成日	平成31年2月11日	評価結果市町村受理日	令和元年5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2791300078-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2791300078-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成31年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔と思いやりを忘れずに、安心できるゆったりとした場所を目指します」のホーム理念に添えるように日々頑張っております。皆様が穏やかにまた、スタッフが働きやすい雰囲気の良い職場を目指しています。皆様のお誕生日会や四季折々の催し、毎日の共同作業(洗濯たたみ・食器拭き・モップかけ)を通して生活を意識付けております。特に家族様との関わりで、その方にとって一番居心地の良い場所は？状態は？と生活する中でアドバイスを提案したり、ご本人様にとっての安心を保てるようにしています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは天気の良い日は年間を通して散歩やコンビニへの買い物、文化祭や神社で開かれる寄席に出掛け、隣接する他施設の行事や近隣の高校の農業祭へ参加したり、福祉体験を受け入れ一緒にレクリエーションを楽しむ等の交流を図っています。利用者は日々調理の下拵えや洗濯物たたみ、掃除や雑巾縫い等に携わり、食事では旬の物や季節行事を取り入れ巻き寿司や流し素麺、水羊羹等のおやつ作り等も楽しみながら利用者を中心とした暮らしとなるよう努めています。家族との関わりも大切に訪時に暮らし振りが分かるよう多くの写真をホーム内に飾ったり、毎月利用者の様子を伝える便りに写真を添えて送付しています。また経験のある職員が他の職員に伝えなが医師や看護師のアドバイスを受け看取り支援にも取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼・夕礼に毎月の目標を上げ皆で努力目標にして共有します	独自の理念を基に毎月職員間で話し合い月目標を決め、理念や目標は玄関に掲示し、家族に向けた毎月の便りにも記載し発信しています。会議やミーティング時に実践状況を振り返り確認すると共に笑顔が見られない時などにも理念に立ち戻り確認しています。また職員の入職時には理念の共有に向けて込められた思いと共に笑顔に繋がるよう信頼関係を築く事の大切さを伝えていきます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩で言葉を交わしたり、秋の文化祭は加神町公民館に写真を出品し、それを皆様で見に行ったり、また介護保険の更新時等ご本人をお連れして保険書を頂きに市役所まで同行いたします	地域のだんじりやよさこい祭り、町の文化祭などの見学に行ったり、神社で開かれる寄席や隣の他施設に幼稚園児が来訪する際は声がかかり利用者と参加し交流を楽しんでいます。また地域の高校生とは農業祭への参加や福祉体験を受け入れるなど継続的に交流をしています。散歩時に近所の方から花をもらう事もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への還元は難しいですが、今生活されている方がたがイキイキと過ごして頂く場面を貝塚高校の生徒さん達と関わることで認知症の理解を深めています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はスタッフの看取りまでの関わり方やグループホームでの生活が難しくなった方への対応など報告して参加して下さった皆様の意見をサービスに反映しています	会議は家族や町会長、民生委員、市職員等の参加を得て開催し、利用者の状況や行事、事故やヒヤリハット等の報告の他、身体拘束の取り組み等も報告し意見交換しています。町会長に文化祭へ出品したい旨を伝えスペースを確保してもらったり、職員の仕事のやりがいについてやおむつ業者による助言等、会議毎に内容を工夫しながら開催しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議・グループホーム会議の担当の職員さん・相談事を解決に導く担当者と共に情報交換をしています、また事故報告など適切に報告し大事に至らないようにしています	運営推進会議に市職員の出席があると共に管理者は2ヶ月に1度行われる市主催のグループホーム会議へ出席するなど日頃から密に関わっており、担当者が交代の折には挨拶に出向いています。また困った事や分からない事は随時相談しアドバイスをしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・高齢者虐待の研修を通してスタッフが自覚・納得しケアが出来るようにしています。介護経験が浅いスタッフが多く身体拘束と知らないで行うサービスが無いように気をつけています。正面玄関は夜間のみ施錠しています	年に1度身体拘束に関する研修を行い参加できない職員には個別に伝達しています。日中は出入り口は施錠せず、職員へは利用者が動きたい理由を考え行動を止めることが無いよう伝え、外に行きたい方には時間を作って出かけるようにしています。拘束に繋がるような対応が見られた場合は個別に注意すると共に会議の中でも注意喚起し、拘束のない支援に努めています。	

ニチイケアセンター貝塚【一階 はなみずき】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修で今年度は上期・下期で高齢虐待の研修が出来ました		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社の研修で管理者が「権利擁護」、成年後見人制度の研修を受けました。ホームでも研修も持ちたいです		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にあたり不安の無いように説明し疑問点があれば丁寧に理解して頂ける様になっています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時いろいろな声を聞けるように管理者だけでなくスタッフにも声を掛けて頂いてます、苦情・要望は直ぐにカンファレンスを開き皆に週知しています	利用者へは意向を伝えやすいよう提案をしながら聞き日々の中で支援に繋げています。家族へは毎月利用者の様子を知らせる便りや写真を送り、面会時にはコミュニケーションを図るなど日頃から意見を言いやすい関係作りに努めたり、法人によるアンケート調査も行われています。意見は出にくい状況ですが意見が得られた際は速やかな対応を心がけています。過去には意見を受けて居室やクローゼットも含めて掃除を徹底するなどの対応をしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの面接を上期・下期の2回全員行いました。また体調により勤務時間の調整や工夫を行い退職者が出ないように気配りをしています	職員の意見は月に1度の会議や朝夕の申し送り時、日々の業務の中で聴いています。職員からは多くの意見や提案が出されており、食事作りに関する意見や状況に合わせたシフトの変更などその都度職員間で話し合い決めていきます。また年に2回個人面談でも意見や希望を出せる機会になっており労働時間など希望に添って個別対応をしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	認知症介護を研修にて理解し現場に反映出来るように促し、個々に遣り甲斐を見出せるように努めています。今のスタッフは3年後の介護福祉士は受験したいと希望する者が半数います		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の研修制度を利用したり、各自スキルUPの研修は奨励しています、シフト以外に研修日の設定をしたり、学びやすい環境にしています		

ニチイケアセンター貝塚【一階 はなみずき】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	貝塚市のグループホーム会議などに参加した施設の情報や工夫を取り入れるようにしています		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報や面接の時に話し合いで把握に努め、穏やかに落ち着いて生活出来るような声かけを心掛けています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様のご本人様との関わり方はそれぞれですが家族を思う気持は同じです。何を希望されているのかを聞き取っております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、何が優先するのか、ご本人様・家族様と一緒に考え提案しています。傾聴ボランティアさんの導入もしています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	この場が皆様の「家」でありスタッフは家族です、もし自分の母なら・おばあさんならとの考えでケア出来るようにしています。また軽作業を通して笑顔が増えたり発語があるとスタッフも癒されています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居されてからも定期的な外出・通院など皆様が家族様と関わっておられます、時々散歩・墓参りにも行かれています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居されても近所のお友達や親戚の方などいつ訪問されても対応できるように配慮しています	近所に住んでいた方や友人、孫やひ孫などの来訪時は居室に案内し、椅子の用意やお茶などを出してゆっくりしてもらえよう配慮をしています。利用者の馴染みの場所でもある市役所へホームの用事の際は利用者も一緒に行くようにしています。また家族と共に親戚の集まる法事や墓参り、馴染みの理髪店などへ行く方には出かける身支度などを支援し、家族の協力も得ながら関係が継続できるよう努めています。	

ニチイケアセンター貝塚【一階 はなみずき】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの方の個性を把握しお互いの出来ないところは補い、出来るところは協力して生活できるように支援しています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退去でサービスが終了された方で、「今、母はこんな状態です」と報告して下さったり特養に移られた家族様へ「また、解らない事があれば・・・」と伝えると「はい、また来ます」と喜んで下さいます		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護の業務は「人」が優先します、業務に人を合わせるのではなく、その方に合わせた業務でなくてはならないと日頃から指導しています	入居時に自宅や病院等を訪ねたり、家族には身体状況や趣味等分る事を書いてもらい職員間で共有しています。初回の担当者会議には家族にも参加してもらい入居後の暮らしが意向に沿ったものとなるよう話し合っています。入居後は関わりの中で知り得た意向等は日々の記録やアセスメントに追記したり、把握が困難な場合は本人の表情や発した言葉等から思いを汲み取れるよう職員間で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	地域での生活状態、その方を理解することから始まり、関わることでいろいろな発見があります、スタッフが会話や活動の中から聞き取りそれを共有出来るように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務の一連の流れに合わせるのではなく、その日の様子や感情を大切にし生活リハビリや活動が出来るようにしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開き、またそれぞれの気づきを集めより具体的な計画で支援していきます	アセスメントや事前に確認した本人や家族の意向を基にサービス担当者会議を開いて話し合い介護計画を作成しています。基本的には6ヶ月毎にモニタリングを行い計画を見直し、状態に変化があった場合は随時見直しています。また必要に応じて往診時に確認した医師の意見や訪問看護師、訪問マッサージ師などの意見も聞き計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わった事での変化や行動が記録に残るようにし、それをスタッフが共有出来るような介護記録を残しています		

ニチイケアセンター貝塚【一階 はなみずき】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の望んでおられる希望に少しでも近づけるような関わりや支援が出来るように、既製概念に囚われず自由な発想で視野を広げて考えるようにと指導しています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの周りの環境・散歩コース・桜の季節の花見・コンビニへの買い物・役所への訪問と様々な資源を出来る限り活用しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームでの健康管理は必須です。定期的な往診・体調不良時の指示やレントゲンなどタイムリーな情報を伝える事で適切な治療がなされています	入居時にホームの協力医について説明を行い、かかりつけ医を選べる事も伝え選択してもらい、継続している方は本人の状況を口頭や文書で伝え家族と受診し結果の報告を受けています。24時間連絡が取れる協力医は2週間に1度往診があり、医師の指示でレントゲンが必要な場合もホームでレントゲンを受けることができます。また必要や希望がある場合は訪問歯科や訪問マッサージを受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少し不安な部分の心配事や確認は訪問看護師さんが訪問してくれることで安心です、何でも相談できる関係を築いています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	河崎病院・葛城病院・貝塚市民病院・近隣の青山病院など常に連携が取れるように地域医療連携室と情報交換しています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化から今の生活が維持できなくなるようであれば、毎月のお手紙や訪問時に時間を取りお話ししています、この事は日々のケアに関わることなのでスタッフにも週知しています	入居時に重度化に関する指針を基にホームの対応について説明し、医療に関わらない場合は支援できる事を伝えていきます。殆どの方がホームで最期を迎えており、食事が取れなくなる等重度化した場合は家族と話し合いを重ね、医師や看護師と連携しアドバイスをもらいながら支援をしています。家族には付き添いや泊まり込み等の協力を得たり、未経験の職員には経験を積んだ職員が対応を伝えながら看取り支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	経験の少ないスタッフが多く、中々マニュアル通りには出来ないようです。救急搬送も体験し、このような場合は皆が対応できるようにと説明していますが、まだまだ至りません		

ニチイケアセンター貝塚【一階 はなみずき】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練はしていますが、地震の訓練は出来ていません、車椅子の多いホームなので2階の高いところに避難するようには聞いています(津波の予防です)	年2回昼夜を想定した消防訓練を1度は消防署の立ち会いを得て行い、通報や初期消火、参加できる利用者と一緒に避難誘導などを行っています。訓練時には消防署員から地震などの災害についての話を聴いたり、水害時はホームの2階へ避難することを確認し、備蓄は3日分程度の食糧を準備しています。また地域との協力関係作りについては今後の課題としています。	地域の方の協力が得られるよう訓練の開催を近隣の方に知らせたり、運営推進会議で地域との協力関係作りについて議題に上げ話し合われてはいかがでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族である皆様を大切に思う気持はスタッフも同じですが、言葉かけの気遣いが足りないスタッフもおります、個別に対応し指導しています	接遇マナーや認知症に関する研修などの中で一人ひとりを尊重した対応などについて伝え、不参加の職員には管理者が個別に伝達をしています。利用者とは信頼関係を築くことを大切にしており、日々の中では丁寧な言葉遣いを基本に堅苦しくならず、一人ひとりに合わせた言葉遣いや対応をするよう伝えていきます。不適切な対応が見られた場合は管理者が個別に注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	もう少し、ゆっくり落ち着いてお話を聞く事に皆に指導し、こちらが決めた事を促すのでは無くいくつかの選択肢を上げ選んで頂くように心がけています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度のタイムスケジュールはありますが、その日の体調や希望に添える様に、業務が主では無くご本人様を主と考えて生活出来るような業務を行うように指導しています。毎日入浴希望の方へも対応できています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の散歩前の身だしなみや服装・お花見の外出時の薄化粧・花火の日の浴衣と薄化粧・敬老の日の催し時の正装などメリハリのある工夫をしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感があり、会話の中から「こんなん食べたいな」皆様の大好きな鮎にしましょうか?」など提案し、準備・お盆拭き・等して頂いています	献立は利用者の希望や旬の物などに配慮しながら立て、利用者は野菜の皮むきなどの下拵えや盛り付け、食器拭きなどのできることに携わっています。利用者の希望でお造りにしたり、ひな祭りの押し寿司など暦の上での行事食や流し素麺、花見や敬老会は家族と共に食事を楽しむ機会を作っています。また水羊羹などのおやつを作ることもあり食べる事を楽しめるよう工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段家庭で食べているメニューをミキサー食・柔らか食・そして色合い・量など気を配り、水分量も個々の摂取量に足りない時はスタッフに申し送りして好きな飲み物を提供しています		



ニチケアセンター貝塚【一階 はなみずき】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に歯磨きの出来る方は洗面台で、介助の必要な方はブラッシング・スポンジ・口腔ウエットティなどで対応しています。訪問歯科も月に2回来て頂き利用されている方もあります		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本トイレ誘導ですが、その方の排泄に合った方法を行っています(定期的なおむつ交換・その時々トイレへの声かけなど)	記録から個々の排泄パターンを把握しトイレへの声掛けや誘導を行い、座位が取れる方は基本的にトイレで排泄ができるよう支援しています。夜間のみポータブルトイレやおむつを使用したり、定期的に排泄用品の業者による研修を受け個々に合わせた用品の選択や支援ができるよう努めると共にトイレ表示を分かりやすくし、失敗を減らし出来る限り現状を維持できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者の方の便秘は体調に大きな影響を及ぼすことを理解し、食事の工夫や軽運動・Drと相談し適切な排便コントロールを行っています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	皆様に入浴を楽しんで頂ける様に適切な促しで強要しない、また時間帯も朝・夕でも希望があれば対応します、便汚染があった場合でも臨機応変に対応し、気持ちよく過ごして頂ける様にしています入浴剤の色々そろえています	入浴は週に2～3回を目安に午前中から午後の3時頃の間に入ってもらい、希望により毎日入る方もいます。季節の柚子湯をしたり、入浴時は利用者とマンツーマンでゆっくり関わり、話をしながら寛いで入ってもらえるよう心がけています。入浴を断る方には声掛けや職員を交代するなど工夫をしながら本人が気持ちよく入れるよう配慮をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状態に合わせて自由に過ごして頂いています、布団干し・環境整備も常にしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食後の服薬・入浴後の塗り薬・排便コントロールの便秘薬など適宜対応しています。また皮膚の観察で潤う不足であればローション・軟膏など場面に合わせ対応しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の趣味・好きなことなどを・・・と常に試行錯誤していますが、摂り合えず催し物は皆様と計画・準備してその日を楽しんで頂ける様に笑顔が見れるようにしています		



ニチイケアセンター貝塚【一階 はなみずき】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春の桜の花見・毎日の散歩・夏の落語会の参加・隣のエル・ケアさんの催しへの参加・介護保険の更新時に役所までの受け取りなど、ご本人様が出来る事はして頂いています	天気の良い日は年間を通して近隣の散歩に出かけており、暑さ寒さの厳しい季節でも出かけやすい時間帯を選び短時間でも散歩に出るようにしています。地域の祭りや落語会、高校の農業祭等に行ったり、桜の花見は家族にも声をかけ一緒に出かけています。また家族の来訪時に買い物や外食に行く方もおり、家族の協力も得ながら外出できるよう努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コンビニでの買い物はご自分で欲しい物を選んだり支払いされます。和菓子屋・ケーキ屋さんなどもおやつを買いに行く事もあり支払い時はご自分で見ておつりなど頂いています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じてやっていきたいと思っています。今回は出来ませんでした。年賀状の作成をします		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの場面でも過ごしやすい環境を意識して安定した生活が出来るようにしています。ホールのBGMや季節の花・室内の温度・採光など	共用空間は観葉植物や散歩時にもらった花や庭の花を活けたり、季節に応じて雛飾りなどを行い季節感のある空間作りをしています。ユニット毎の利用者の状況や利用者同士の相性にも配慮しテーブルの配置や座席を決めたり、廊下の奥に椅子を置き静かに過ごせる空間を作っています。また床暖房の設備もあり、温度や湿度の管理、日々関わられる利用者との掃除を行い清潔で過ごしやすい環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でお友達とお話をされたり、テーブルを囲んで日々の生活の話・近所や家族様が暮らす場所の話がされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドの位置は入居時に家族様と相談して決めていますが、その後生活する中で不便であったり、使い勝手が悪い時は模様替えの工夫もしています。服や下着なども体調に合わせて心地よい物をアドバイスしています	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうよう伝えてあります。利用者は自宅から筆筒や机と椅子、テレビなどを持参し、暮らしていた部屋に近い環境となるよう家族と相談しながら配置しています。家族や友人の写真、本人が落ち着くぬいぐるみなども身近に置き、安心して過ごせるよう配慮し、希望があれば布団での生活も可能となっています。また日々掃除を行い清潔な空間を保てるよう努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全におトイレに行けるように場所がはっきり分かるようにして、自由に過ごして頂いています		